

東大和ウォーキングマップ (郷土博物館編)



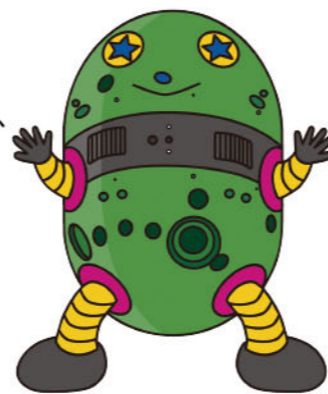
東大和市立郷土博物館 表面⑤

市立狭山緑地の一角にある市立郷土博物館は、「狭山丘陵とくらし」がテーマです。常設展示室では、東大和の歴史、民俗、狭山丘陵の自然を紹介し、年に3~4回テーマを決めて企画展示も開催しています。

また、プラネタリウムでは、都内初の「メガスターⅡB」を導入し、1千万個の星が織り成す美しい星空のもと、四季折々の星座を楽しく学べるようになっています。

自然観察会・星空観察会など楽しい行事もたくさんあり、市立狭山緑地での自然観察に役立つ「自然観察シート(無料)」や毎月発行の「星だより(無料)」、文化財に興味のある方には「文化財ガイド(1部100円)」も用意しています。屋上の芝生でお弁当を広げるのも気持ちいいですよ!

郷土博物館の裏に広がる市立狭山緑地には木道の散策コースやフィールドアスレチックコースがあり、野草観察やバードウォッチング・散策・レジャーに最適です。



このマップは、東大和市の自然や文化財に親しみながら、街づくりを見ていただけるように作成したものです。

姉妹編の「多摩湖編」は西武多摩湖線武蔵大和駅に、「野火止用水編」は西武拝島線東大和市駅に、「桜が丘編」は多摩モノレール玉川上水駅にありますのでご利用ください。

※ウォーキングの際には、体調管理、安全に充分ご注意ください。

- ◆所在地 東大和市奈良橋 1-260-2
- ◆電話 042-567-4800
- ◆入館料 無料
- ◆プラネタリウム 大人300円、小・中学生100円
- ◆観覧料 (団体割引等詳細は郷土博物館までお問い合わせください)
- ◆開館時間 午前9時~午後5時
- ◆休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館)
祝日の翌日(金・土曜日が祝日の場合は翌週火曜日休館)
年末年始(12月28日から1月4日)

☆プラネタリウム投影開始時刻

平日	土・日・祝日
*	11:00
*	13:00
15:00	15:00

★コースで見られる ★モニュメント

(東大和市美術工芸品)

市内に伝わる「よもやま話」などを主なテーマとして、市内全域に27体のモニュメントがあります。このコースでは3体が見られます。

◆モニュメントマップは下記二次元コードから



芝中中央公園 「繭」

昔、東大和市の農家では、養蚕が盛んに行われていました。



郷土博物館

「いのしし」表面⑤

狭山丘陵には昔、いのししが多く、畑の作物が荒らされて、村の人達はたいそう困ったそうです。



蔵敷公民館

「子供みこし」表面⑧

昔、蔵敷に子供だけのお祭りがありました。みこしを担いで、家を一軒一軒歩き、おひねり(祝金)を集めたそうです。



ぞうしきちようれん ばあと

蔵敷調練場跡(東大和市指定文化財) 表面②

幕末、不穏な世相に対応するため、各地で豪農の子息が「農兵」として組織されました。そして蔵敷村を中心とするこの地域の農兵の訓練をしたのがこのあたり(芝中団地周辺)だといわれています。

調練場跡の文化財の看板が立ててあるところは、日枝神社です。フェンスに囲まれた三角地の中の小さなお社で、地域の人々からは山王様と呼ばれています。



ぞうしき こうしん づか

蔵敷庚申塚(東大和市指定文化財) 表面③

「庚申信仰とは?」

「日」にも「年」と同様に干支(えと)があり、庚申(かのえさる)はこの干支のひとつで60日に一度まわってきます。

この日は、一晩中寝ずに過ごすという風習がありました。庚申の日には、人が寝ている間に、体の各所に巣食っている3匹の虫が天に上り、神様にその人間の悪いおこないを告げ口します。神様は怒って人間の命を縮めようとするので長生きすることができません。そこで、60日に1度のこの日は寝ずにすごし、体から虫が出ないように静かに日が変わるのを待つのです。

この信仰は、江戸時代頃から仏様を拝むという信仰に変化していきました。江戸時代や明治時代には、信仰の本質が忘れ去られ、この日に村人が集まって飲み食いする一種のレジャーになっていったようです。



ぞうしき たい し どう あと

蔵敷太子堂跡(東大和市指定文化財) 表面⑥

聖徳太子に対する信仰は全国にありますが、多摩地域では比較的珍しく、かなりひろい地域を対象にした太子信仰の場だったのではないかと思います。現在の建物は地区の集会所として利用されており、平成4年に改築されたものですが、かつての信仰を伝える場所として市史跡となっています。

太子堂前の広場の隅には、お地藏様や石碑がいくつか並んでいます。



ぞうしき こうさつ ばあと

蔵敷高札場跡(東京都指定文化財) 表面⑦

ここは、江戸時代に幕府からのお触れを人々に知らせるための「高札」を掲げた場所です。

慶長8(1603)年の年貢に関する高札がその最初といわれています。高札場は、もともとどの村々にもありましたが、都内で現存するのは府中と東大和だけです。

また、当時の「高札」は郷土博物館に展示してあります。



(問い合わせ) 東大和市まちづくり部都市づくり課
TEL042-563-2111 内線(1257)